

●シリーズ●わが町の文化財へ81

広島県重要文化財 稲生神社本殿(附棟札2枚)

平成11年4月19日指定

典型的な芸備造の三間社形式の社です。芸備造とは、屋根をいりもやづくり入母屋造とし、正面に千鳥破風と軒唐破風を設けた華麗な社殿のことです。

稲生神社は、『稻荷旧記』(寛永11年・一六三四)によると大永2年(一五二二)、京都伏見より下津田大須佐山に勧請し、永禄12年(一五六九)、現在地に遷座したとされています。そして慶安3年(一六五〇)に再建したものが現在の本殿です。

菊や牡丹の透かし彫りや、竹に虎の浮彫りを各所に施すなど装飾性の高い建築で、屋根が銅板葺になってほは、江戸前期の建築様式をとどめています。向拝頭抜は龍の丸彫で、

手狭を菊と牡丹の透し彫、正面の木鼻を唐獅子の丸彫とし、欄間には竹林に虎などの浮彫を入れるなど、装飾性が高いものです。そして極めて古式な彫り方で、細部に濃厚な地方色が見られ、保存状態もよく貴重な建造物です。

※神社名は「稲生」ですが、文献名については、そのままの「稻荷旧記」と表記しました。



●シリーズ●わが町の文化財へ82

世羅町重要文化財 石造五輪塔群

昭和59年5月15日指定

久代谷は、中世庄園大田庄があつた時代、役人であつた雑掌久代一族の拠点でした。

薬師堂そばの古石塔群の中には、鎌倉時代末期から室町時代にかけての五輪塔が数十基あり、これらの石塔群は、久代一族の墓塔と推定されています。

このうち七基が当初の形を残しており、その中の地輪の一つに「暦応二年二月五日(一三三九)勝念阿弥陀佛」の刻銘があります。この塔は、県内の五輪塔の年代基準資料となっています。

久代氏は、尾道浄土寺の古文書

「定証起請文」の末尾に、

縁衆として淵信・範方・頼能・頼濟・信如らの名が記載されています。

また、宮島の厳島神社文書の反古裏紙背文書や尾道浄土寺文書(胎蔵界曼荼羅図・金剛

界曼荼羅図画絹裏墨書銘)などに久代谷と久代氏に関する記載があります。

